

（別紙 1） 施設紹介

①	特別養護老人ホームうみべの家	所在地	東茨城郡大洗町大貫町 2 5 5 - 5		
居室のタイプ	ユニット型	平均要介護度	3. 9		
入所者数	5 0 名	職員数	5 5 名		
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト（種類）	天井走行型リフト7台、床走行型リフト2台			
	スライディングボード	5 枚	スライディングシート	6 枚	
	その他の福祉用具	スタンディングリフト4台			
特記事項	リフトやボードはお母さん世代の職員に特に好評です！				
PR	<p>年2回腰痛アンケートを実施しており、腰痛の有訴者の低減が数字に表われており、また腰痛に起因する退職者は見られません。リフト等のサポートツールを使用することにより、異業種からの入職者やシニア世代の入職者の定着化の一助になっています。また、入居者の心身の状態にあわせた移乗介助の選択肢の幅が広がっています。</p>				
②	特別養護老人ホームこほく	所在地	土浦市菅谷町タカノス 1 1 6 8 - 1		
居室のタイプ	ユニット型	平均要介護度	3. 7		
入所者数	8 0 名（ショート10名）	職員数	8 1 名		
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト（種類）	床走行式リフト2台			
	スライディングボード	9 枚	スライディングシート	8 枚	
	その他の福祉用具	スライディングゲローブ、フレックスボード、介護ロボット（マッスルスーツ）			
特記事項	スライディングボード動画マニュアル作成・床走行リフトの取扱いマニュアル作成				
PR	<p>令和5年度のこほくの合言葉は『「個」から「集」へ』としました。利用者様の視点で行動し、「生活のしづらさ」という課題解決に向け、職員個人の能力を引き上げ、職種間の連携を高めて課題解決に取り組む施設作りを目指しています。また、職員が安心して仕事ができるための環境作りの中に「ICTの活用」の継続と、ノンリフティングの推進に力を入れ、利用者様の生活に合わせた適正な介助を行っており、利用者様・職員の双方にとって安全・安楽な職場環境に力を入れています。</p>				
③	青嵐荘特別養護老人ホーム	所在地	結城市七五三場 2 1 0 - 1		
居室のタイプ	既存型	平均要介護度	3. 5		
入所者数	1 0 0 名	職員数	5 8 名		
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト（種類）	床走行式リフト2台			
	スライディングボード	7 枚	スライディングシート	1 0 枚	
	その他の福祉用具	フレックスボード・見守り支援機器 a a m s			
特記事項	いつでもどこでも確認できる動画マニュアルで、技術向上に励んでいます！				
PR	<p>当施設は、腰痛予防モデル施設として、施設で働く全職員が腰痛の心配なく笑顔で働ける事を目標として取り組んでおります。そのために職員がいつでもどこでもスマホやタブレット等で確認できる動画化したマニュアルを作成しています。また「リフト」等の使用・選定を行うと共に、各種ロボットや支援機器の試用を継続する事で、より負担の少ない介護方法が統一して行える 職場環境づくりに努めております。少しでも関心がおありでしたら、遠慮なく当施設にご連絡ください。また、『腰痛予防モデル施設研修』への参加もお待ちしております。</p>				

(別紙2) 施設紹介

④	特別養護老人ホームサン豊浦		所在地	日上市川尻町758-27	
居室のタイプ	従来型		平均要介護度	4.1	
入所者数	62名		職員数	48名	
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト(種類)	床走行式リフト、スタンディングリフト			
	スライディングボード	5枚	スライディングシート	4枚	
	その他の福祉用具	フレックスボード、イージーロール			
特記事項	介護職員が福祉用具を活用できるよう促進しています！				
PR	<p>当施設では自立支援介護と看取りケアを主に取り組んでいます。利用者様の自立や尊厳を守るため、日常生活の中に生活リハビリを取り入れたり、トイレでの排泄を行っています。</p> <p>最期の時まで、本人らしい生活が少しでも続けられるようにサポートしています。また、職員の腰痛予防の取り組みとして、福祉用具を使用したり、利用者様個別に合った介助方法を学びながら、働きやすい職場づくりを目指しています。</p>				
⑤	特別養護老人ホーム松寿園		所在地	鹿嶋市武井1956-3	
居室のタイプ	ユニット型(72)、従来型(28)		平均要介護度	4.2	
入所者数	100名		職員数	79名	
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト(種類)	床走行式リフト3台			
	スライディングボード	7枚	スライディングシート	13枚	
	その他の福祉用具	介護ロボットaams10台、自動体位変換機能付きエアマットレス(利楽)5基、跳ね上げ式車いす、低床ベッド、超低床ベッド			
特記事項	職員の身体への負担軽減を図り、リフトをはじめ色々な福祉機器類を導入しています。腰痛予防のために、1日2回定期的に体操を行っています！				
PR	<p>高齢化社会の大きな波が打ち寄せる中、働き手の減少及び高齢化が深刻になってきました。そのような中、当園では、『ひとりひとりが安心して安全に長く働き続けることが実現できる様に』を目標として腰痛予防対策に取り組んでおります。ここ最近では、少しずつではありますが職員の意識も変化してきていて緩やかではありますが、良い兆しが見えてきています。たぶん、私たちと同じような悩みをお持ちの施設も多いのではないかと思います。腰痛予防モデル施設研修を行っておりますので、ぜひご参加いただき情報共有することで、お互いにより良い施設づくりを目指しませんか。</p>				
⑥	特別養護老人ホーム桜の郷元気		所在地	東茨城郡茨城町桜の郷231-7	
居室のタイプ	ユニット型		平均要介護度	3.48	
入所者数	80名(内ショート10名)		職員数	72名	
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト(種類)	床走行式リフト			
	スライディングボード	5枚	スライディングシート	8枚	
	その他の福祉用具	フレックスボード			
特記事項	テストを行い全職員が安全にリフト操作を行えるようにしています！				
PR	<p>泰仁会の経営理念の中にある「職員の生活を保障し健全な職場づくりをします」の言葉を実践するために、腰痛による離職者0(ゼロ)を目指し桜の郷元気では腰痛予防の取り組みを行っています。コロナ禍でもあり研修等がなかなか行えていませんが、新たに腰痛予防担当者を増やし、少しずつではありますが前進していると感じています。また、運営方針である『地域と共に暮らし地域に繋げるサービスの実践』のもと、誰もが住み慣れた家や地域で暮らし続けたいという願いを実現するため福祉用具を使用しながら自立支援を行い在宅復帰にも力を入れています。</p>				